

発行所
 日本聖公会 東北教区
 仙台市青葉区国分町2-13-15
 TEL 022-223-2349
 FAX 022-223-2387
 URL <https://nssk-tohoku.com/>

東北教区報 2026年3月号

あけぼの

主の食卓を囲み

北海道教区報・東北教区報

共通巻頭言

司祭 パウロ 渡部 拓



「飲みニケーション」なんて言葉が今の世の中で使うと即ハラスメント案件になってしまうし、お酒を飲むかどうかはともかく、この「食卓を囲んでコミュニケーションを取る」という概念は、今の世の中にむしろ必要なのではないかと強く感じています。

現代社会において重視されるのはタイムパフォーマンスやコストパフォーマンスなどと言われています。だから自分の近い人ですら割に合わないと感じれば直接出会うこ

「飲みニケーション」なんて言葉が今の世の中で使うと、少し調べると分かることですが、至る所で様々な人々と食事と共にしています。そこには5000人の供食やカナの婚礼、徴税人マタイとの食事やザアカイとの食事(宿泊)、有名な弟子たちのとの最後の晩餐、あるいは当時敵対していたファリサイ派の人々とすら食事をしていました。このようにイエスは至る所で初めて会う人とも、意見が違っても直接顔を合わせて食事をする、語り合っていたようです。

とはせず、SNSやメールで十分と済ませてしまうことが多い。ましてこれが関係性が薄い人、自分の知らない人のものであればなおさらのことでしょう。かくいう私自身も、そんな感覚が分らない部分があるのですが、同時にイエスならそうではないだろうとも思うのです。

「永遠の命」の象徴であるのは「和解」の象徴としての食事です。イエスは当時罪人とされていた人とも食事をし、彼らを神との和解、正しい生き方へと導きました。あるいは対立関係にあった人との食事でも、その根底には彼らとの和解も求めていたのかもしれない。

きっとイエスは神と人との関係ももちろんですが、人との間にあっても分かり合うため、共に生きていくため

それこそ周りの人間に「あいつは大酒飲みの大食漢だ、何と罪深い」と陰口を言われるほどでした。では何故イエスはそれほどまでに食事を共にすること、人々と「食卓を囲むこと」を大切にしていたのでしょうか。それはきっと、色々な意味で食事を共にするということが、人間が生きていく上で必要なことであつたからでしょう。

「主の食卓を囲んで分かり合う」ことが必要なのが、北海道と東北の仲間たちであるでしょう。文化や生活環境、あらゆるものが違う私たちが、イエスの食卓を共に囲み、お互いを知り合い、共に生きていく道を見いだしていけるように。お互いにイエスを見習って、沢山の出会いを実現していく、大きな喜びに向かっていければと願っています。

(秋田聖救主教会牧師・大館聖パウロ教会管理牧師)

食事をするという事は、言うまでもなく生命活動に必要なことです。しかしそれ以上に聖書的に言うならば、それは「喜び」「神と人との和解」

私たちはそれは同様なのでしよう。どんなに世の技術が発達しても、価値観が移り変わるうとも、人の営みの根この部分は変わらないのだと思います。だからこそ私たちがイエスのみ跡を歩むものとして、様々な人と「出会い」「食卓を囲み」「分かり合う」ことを諦めずに進みたいと願っています。

それこそ周りの人間に「あいつは大酒飲みの大食漢だ、何と罪深い」と陰口を言われるほどでした。では何故イエスはそれほどまでに食事を共にすること、人々と「食卓を囲むこと」を大切にしていたのでしょうか。それはきっと、色々な意味で食事を共にするということが、人間が生きていく上で必要なことであつたからでしょう。

私たちはそれは同様なのでしよう。どんなに世の技術が発達しても、価値観が移り変わるうとも、人の営みの根この部分は変わらないのだと思います。だからこそ私たちがイエスのみ跡を歩むものとして、様々な人と「出会い」「食卓を囲み」「分かり合う」ことを諦めずに進みたいと願っています。

執行機関拡大合同会議報告

総主事 司祭 ヨハネ 八木 正言

去る1月17日、主事会議主催の「執行機関拡大合同会議」が仙台基督教会において開催されました。この会議は、毎年年初に開かれていた教区の当該年度の宣教活動を考える上での大切な集まりで、教区の教役者、常置委員、執行機関各グループ、教区展望会議、ハラスメント防止・対策委員会、教役者聖職候補生後援会、教区保育連盟、教区婦人会の各会議体リーダーが一堂に会し、新しい一年をどのような思いをもって会議体を運営、歩んでいくのかを確認する場です。当日は、祈りをもって会議が始められ、参加者自己紹介の後、互いに顔を合わせながら、20余名の参加者によって進められました。

まず、主事会議から2026年度の宣教活動指針「耳を傾けよう」「心さげ」「開く」のために「共に担う宣教」が示され、これを基にした「閉ざされた心が開かれるとき」――

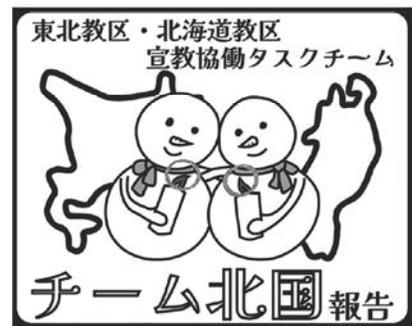
当事者意識をささげるといふこと」という発題がありました。私たちは日々の生活の中で、知らず知らずのうちに「自分には関係のないこと」「誰かがやればよいこと」と課題に距離をおいてしまうことがあります。しかし、そうした姿勢が、心を閉ざしてしまうことにつながるのではないかと、という問いかけがなされました。

また、物語や聖書の言葉を通して、「当事者意識」とは何かが語られました。それは、すべてを一人で背負い込むことではなく、弱さや迷いも含めた自分自身を、神さまの前に正直に差し出すことから始まる、という理解です。「心を開くこと」「自分をささげること」という二つの言葉が、一昨年の宣教協議会、昨年の教区修養会に引き続き、この一年を歩む上で大切なキーワードとして示されました。続いて、今年度の予算につ

いての説明も行われました。予算は、教区の働きを支えるための大切な土台です。同時にそれは、「何を大切にし、どこに力を注いでいくのか」という教区全体の願いが形となったものでもあります。限られた状況の中にあっても、与えられているものをどのように生かし、宣教につなげていくのかをあらためて共有しました。

午後には分かち合いの時間が持たれ、それぞれが感じたことや気づきを言葉にしました。教区が抱えるさまざまな課題についても、「誰かの問題」ではなく、「私たち一人ひとりの課題」として受けとめ、できる形で関わっていくことの大切さが確認されたのではないかと思います。

この会議を通して、教区の働きは特別な誰かだけが担うものではなく、祈りのうちに一人ひとりが支え合って進めていくものだという思いを分かち合うことができました。それぞれが心を開き、できることを神さまにささげながら、2026年度の歩みを共に進めていきたいと願っています。



東北教区

アイリーン 坂水 かよ

春はいろいろなことが動き出し、新しい始まりを予感させる、そんな季節です。

両教区の教区報2月号の巻頭言は三浦千晴司祭が執筆され、この号から「同じ」に統一されました。教区報の新たな試みです。

東北・北海道教区が宣教協働の実践を始めてから3年、毎月開催される「チーム北国」コアメンバー・ミーティングも、この3月には33回目と回を重ねています。今年目標は、新教区の全体像を、より「わかる」ものとして信徒・教役者の皆さんと共有していくことです。

合併後の組織や規程等をさらに具体的に、財政では勘定科目の統一や分担金の算出方法等々の課題に取り組み、積み上げ作業が続いています。両教区間の交流も広がり深まってきていますが、さらに今年は一堂に集いつなかりを深められる企画の実施に向けて準備を進めています。

東北・北海道の教会等をめぐる「巡礼の旅」やスタンプラリー。また、両教区それぞれで「そうだ、北海道へ（東北へ）行こう！」キャンペーンも実施されます。これらの「わくわく」企画の詳細は決定次第、皆様にお知らせします。

東北教区では宣教135周年記念礼拝を10月12日（月・祝）に、仙台基督教会を会場に行うことが決定されています。今年の出会いと交わりが楽しみです。

「チーム北国ホームページ」
(<https://sites.google.com/view/nskteamkiaguni/>)





シリーズ わたしの道の光

入信のきっかけ

仙台基督教会
マーガレット 梅津 庸子



40年前に
なりますが
私の家の近
所にアメリ
カ人の宣教
師の家族が
住んでいて、

自宅を解放して英会話教室を
開催するチラシが入りました。
「すべて無料・託児有り」に
惹かれて参加しました。オー
プンな雰囲気です。楽しい教室で
した。授業の最後にお茶を囲
んで簡単な聖書の話がありま
した。キリスト教と私の関り
といえば幼稚園がキリスト教
系だったくらいで、育った家
庭は無宗教、何かを信じる事
にはかえってマイナスの
イメージを持っていたと思い
ます。聖書の話はお付き合
いと思ひ聞いていました。
英会話教室も回を重ね、聖
書の話が少し共有できればと

思い、聖書を1冊買い求め新
約聖書から読み始めました。
イエス様の奇跡の描写は「こ
んなことを信じている人が本
当に在るのだろうか、やっぱ
り宗教なんだ」と思ひながら
も読み進めました。「マタイの
福音書」も終盤になり、27章
を読んでいる時でした。「十字
架につける」の箇所が目が釘
付けになりました。叫ぶ群衆
が自分と重なり、これは私の
姿だと。一瞬何かに射貫かれ
る感じがしました。

このことがあった後、毎夜
子どもを寝かせた後に聖書を
開く時が楽しみになり、聖書
の言葉が身に染みるようにな
りました。これは本物で、ここ
に書かれている神がいるとし
たら真の神だと思えました。
拙い信仰と知識でしたが、イ
エス様のご復活が作り話で
あったなら、聖書は無意味な
書物だと思われました。
一方で何かを信じることに
怖さと恐れ、自分がどこに行
くのかこのまま続けてよいの
かと不安もありました。当時、
教育テレビで神学校の先生が
福音書を解説する番組があり、
それを見たり三浦綾子さんの

小説も読んだりして、次第に
不安は払拭されていき、洗礼
を望むようになりました。が、
ここからが大変で連れ合いは
猛反対で、家庭はひと時嵐に
揺さぶられました。神様は愛
の方ではなく、自分にはとて
も残酷な方に思えました。そ
んな中でも教会へは通いまし
た。教会に通う足は軽やかで、
自分の家に帰るのは気が重
かったです。

今から振り返ると独りよが
りで愚かな面、配慮のなさも
多々あったと悔いる思いもあ
りますが、とにかく夢中でし
た。まだ幼かった子どもたち
には本当に済まなかったと、
今も心が痛みます。後になっ
て母と娘が洗礼に預かったこ
とは、神の憐みの業というほ
かはありません。
あれから40年、聖公会を訪
ねて15年。私がイエス様に出
会うのにいったいどれくらい
のパンが投げられ、献身と祈
り、忍耐があったのか、最近
考えることがあります。感謝
の気持ちとともに、老年に
なったこれからは、イエス様
と共に歩む中で、豊かな信仰
を实らせていく時だと考えて
います。



帯広聖公会幼稚園



帯広聖公会幼稚園は195
5年、帯広聖公会設立60年目
にキリスト教の精神を基礎に
した幼児教育を目指し、教会
会館を園舎として開園。19
58年現在の場所に移転。J
R帯広駅から徒歩10分ほどの
帯広市の中心部近くに位置し、
満3歳〜年長の6クラスで園
児は110名。入園式、春秋
冬の遠足、プール保育、夏ま
つり、お泊り会、お土産さん
収穫感謝礼拝、クリスマス祝
会、スケート保育、卒園式、
サッカー教室、ダンスの日
等々、十勝の豊かな自然、季
節を感じながら子どもたちは
過ごしている。

各教区正義と平和 担当者会・参加報告

正義と平和担当
司祭 パウロ 渡部 拓

1月15日から16日に、東京
のナザレの家にて「2026
年各教区正義と平和担当者の
集い」が開催され、1日目は
各プロジェクトからの報告と
各教区における報告を聴き合
い、2日目はさらにそれを深
める話し合いを持ちました。

中でも印象的であったのが、
「活動の継続が難しい」とい
う複数の声がかえったこと
でした。難民や外国籍の方に対
する支援。路上生活者への支
援等、小さくとも続けてこら
れたものが、近年の制度の改
正や資金の不足、人材の高齡
化担い手の減少等で、運営が
困難になりつつあるというこ
とが報告されたのです。
これらのことは私たちの教
区・教会にも当てはまること
であると感じると同時に、よ
り一層キリスト者としての祈
りと危機感を持って協力し合
う必要があると教えられた時
間となりました。



大館聖パウロ教会

本年1月より当教会と能代キリスト教会は合併して一つの教会に、能代は教区の伝道所となりました。能代とは昔から深い交わりがあり、これまで以上にお仲間として喜んで共に幸せな信仰生活が送れますようにと祈っています。

昨年暮れのクリスマス礼拝は25日午後3時半から始まりました。例年欠かしたことがない方々が体調を崩され寂しかったのですが、能代から大高さんご夫妻が来てくださった。とても嬉しいことでした。今回のクリスマス飾りは、信徒の方からの提供でたくさん。陶器の天使たちが楽器を携えてやってきて、窓辺で奏で、聖夜の雰囲気を作ってくれました。前日の24日は夕方から大館幼稚園卒園児のクリスマス礼拝が行われ、3名の参加でしたが、キャンドルサービスとミニページェントに幼稚

園の先生たちも加わって、楽しく濃い交わりで、貴重な時間を過ごすことができました。12月9日、能代の北嶋典子さんが長い闘病の末、天に召されました。主のみ許で安らかな眠りをと、皆でお祈りいたしました。

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

あの震災から15年経とうとしています。3月11日の祈りでは、今までの支援活動

にずっと寄り添っていただいている笹森田鶴北海道教区主教の説教、佐藤清吾氏から石巻市十三浜での働きについて講演をいただきます。多くの皆さんの礼拝参加とご視聴をお願いいたします。

年初から原発再稼働問題について躓きが起こっていて、いかに人災であるかを再認識しています。

(リーダー 浅原 和裕)
3月1日は「聖公会生野セ

東日本大震災15周年 記念の祈り・講演会

2026年3月11日(水)

14:15~15:00 記念の祈り

場所：仙台基督教会・Web配信、青森聖アンデレ教会、盛岡聖公会、秋田聖教主教会、郡山聖ペテロ聖パウロ教会、小名浜聖テモテ教会
説教：主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴 師 (北海道教区主教)

15:10~16:45 講演会

場所：仙台基督教会・Web配信
「津波のあとの十三浜に住み続ける」
講師：佐藤 清吾氏 (元 宮城県漁業協同組合北上町十三浜支所所長、元 女川原発再稼働差し止め訴訟原告団副団長、郷土史家)

※主会場の礼拝と講演会は、東北教区YouTubeチャンネルにて配信いたします。QRコードからご視聴ください。



主催：東日本大震災被災者支援プロジェクト

常置委員会報告

(第3回・1月16日)

「ンターのため」の主日です。大阪市生野区で地域と共に歩む働きを覚え、献金をお届けください。

報告事項▼主教報告①第110(定期)教区会期の教区諸委員を担っていただく

方々に委嘱状を、第109(定期)教区会期末で任を終えられた方々に感謝状を送付した。

②東北教区宣教135周年記念礼拝を10月12日(月・祝)

主教座聖堂仙台基督教会で行う。▼常置委員長報告・今教区会期北海道教区との合同常置委員懇談会を、4月と9月に開催する。▼主事会議報告

2026年度教区宣教活動指針を「耳を傾けよう」【あやび】

「開く」ために「共に担う宣教」に決定した。▼主教諮問事項・教役者人事について、

適当である旨を答申した。▼協議事項①「旅費規程」宿泊費について、規則・規程グ

2026年 宣教活動指針

耳を傾けよう「あやび」「開く」ために

——共に担う宣教

ループの改正案を承認した。②教区事務所から電気代削減のための主教座聖堂仙台基督教会建物エアコン室外機洗浄等の提案があり、これを承認した。③能代キリスト教会が教区伝道所に移行することに伴う処理事項について協議した。

3月逝去者記念聖餐式

3月18日(水) 午前10時30分
於 主教座聖堂
司式・説教 主教 長谷川清純

司祭 ペテロ山本 秀治

司祭 ペテロ松坂 勝雄

司祭 パウロ村上 秀久

司祭 パウロ林 由三

宣教師 Miss Flora M. Bristowe

司祭 1942年3月13日逝去

司祭 1970年3月15日逝去

司祭 1978年3月19日逝去

司祭 テモテ佐藤 光道

2016年3月23日逝去